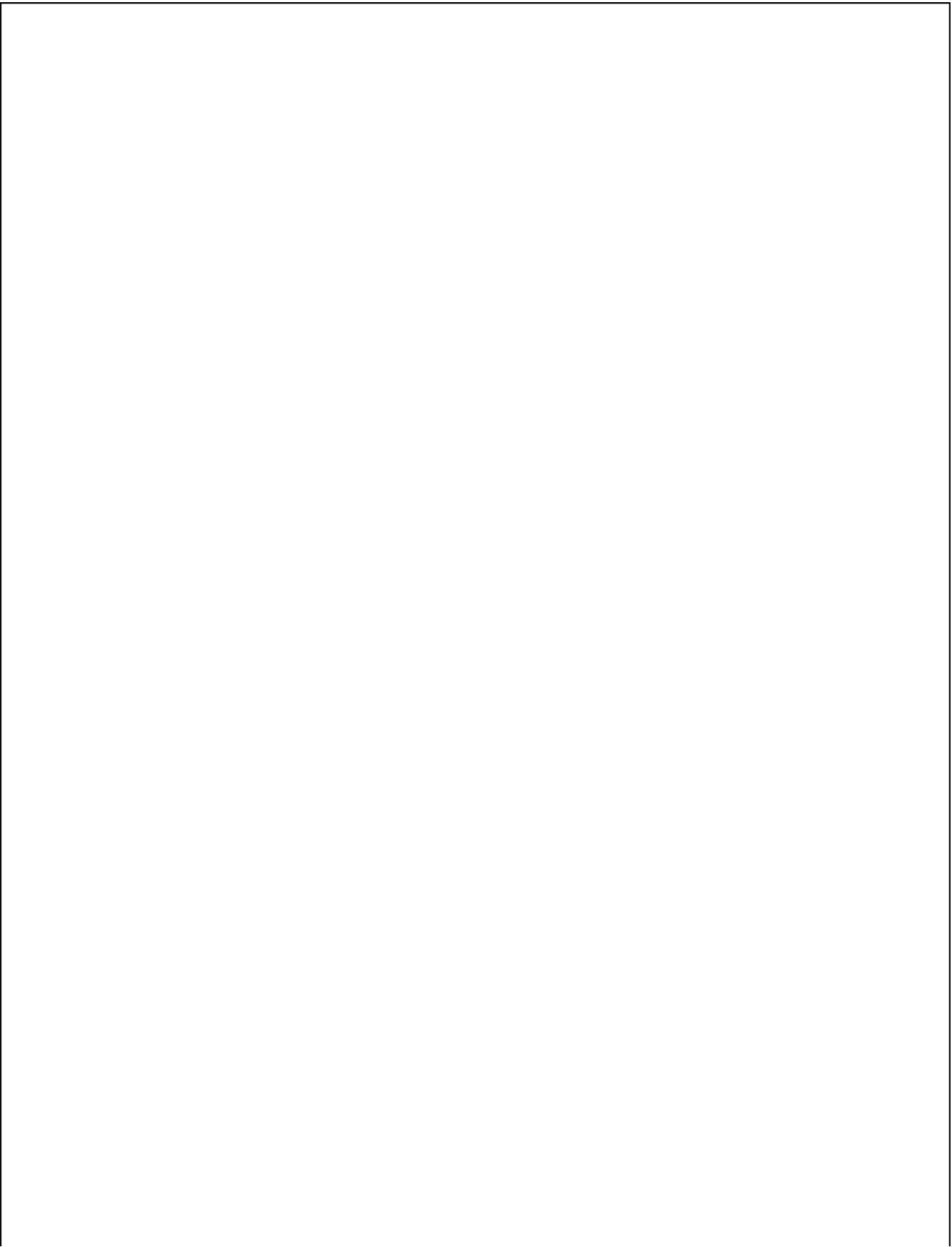


【第 3 編 資産運用 2-47】投資でも注目される SDGs とは(17)後編
投資商品の判断基準 世界の取組と現状は！？

■SDGs と経済成長

- ①元来の企業は、儲けたお金の一部や余剰の資金により、社会貢献するという発想であったが、そこから SDGs によって、本業を通じて利益を得ながら世界を変えるという大きな発想転換へ
- ②経営力や資金力により、世界を変えていこうという意識が、企業の中でも高まっている
 - 特に日本では経団連を通じて、その意識が強まった
 - これが、「Society5.0」と呼ばれるもの

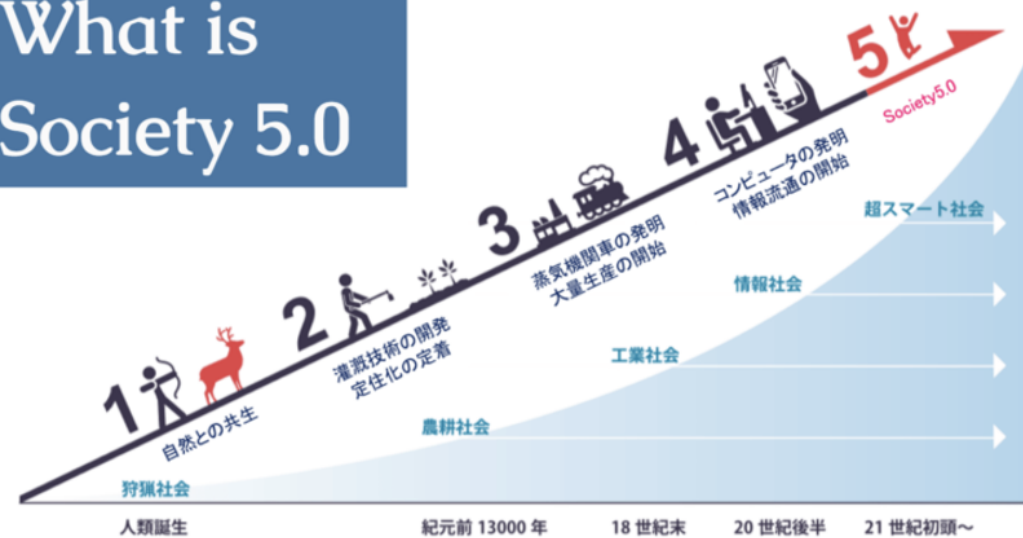


■ Society5.0 の概略

Society 5.0 for SDGs



What is Society 5.0



→AI やIoT、ロボット、ビッグデータなどの革新技术を
あらゆる産業や社会に取り入れることにより実現する新たな未来社会の姿

■ パートナリシップで目標を達成しよう（続き）

→持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、
グローバル・パートナーシップを活性化する
～政策・制度的整合性～

- ①政策協調や政策の首尾一貫性などを通じて、
世界的なマクロ経済の安定を促進する
- ②持続可能な開発のための政策の一貫性を強化する
- ③貧困撲滅と持続可能な開発のための政策の確立・実施にあたっては、
各国の政策空間及びリーダーシップを尊重する
～マルチステークホルダー・パートナーシップ～
- ④全ての国々、特に開発途上国での持続可能な開発目標の達成を支援すべく、
知識、専門的知見、技術及び資金源を動員、
共有するマルチステークホルダー・パートナーシップによって補完しつつ、
持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップを強化する
- ⑤さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、
効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する
～データ、モニタリング、説明責任～
- ⑥後発開発途上国及び小島嶼開発途上国を含む開発途上国に対する能力構築支援を
強化し、所得、性別、年齢、人種、民族、居住資格、障害、地理的位置及び
その他各国事情に関連する特性別の質が高く、
タイムリーかつ信頼性のある非集計型データの入手可能性を向上させる
- ⑦持続可能な開発の進捗状況を測る GDP 以外の尺度を開発する既存の取組を
更に前進させ、開発途上国における統計に関する能力構築を支援する

■ 世界の取り組みと現状 1

- ①UNCTAD（国連貿易開発会議）の報告によると、
発展途上国が 2030 年までに SDGs を達成するための資金が、
2 兆 5,000 億米ドル不足している
- ②発展途上国を補うため、先進国での ODA（政府開発援助）金額は、
2016 年に過去最高額である 1,450 億米ドルに達している
→しかし、目標である GNI（国民総所得比）が 0.7%に届かず、0.32%

■世界の取り組みと現状2

③ODAを増やすのにも限界があるために、
今後は海外からの民間投資に期待が寄せられている

④先進国よりも多い金額の1兆4,000億米ドルが流入している

⑤資金以外の問題として、技術や人材不足も問題視されている

⑥先進国と比べて、インターネットが普及している地域が少なく、
利用能力の格差も課題

■世界の取り組みと現状3

⑦資金だけでなく、技術や人材を確保するために、
先進国は貿易により発展途上国に対して開かれた貿易をする必要がある

⑧開かれた貿易を行ない、技術協力だけでなく、
人材育成を通じて発展途上国が課題解決力を高めることで、
問題を解決できるようになることが重要

■世界のトレンドはSDGsそして…

①SDGsの世界的注目をから投資という視点につながる
ESGというものへの関心が投資家に広まっている

②ESGは環境（Environment）、社会（Social）、ガバナンス（Governance）
の英語の頭文字を合わせた言葉で、
投資するために企業の価値を測る材料として定量的な財務情報に加え、
非財務情報であるESG要素を考慮する投資「ESG投資」が脚光を浴びている